シバウラ消防ポンプ

取扱説明書

P572S

SHIBAURA

本製品の点検・整備については、可搬消防ポンプ整備資格者を有する整備事業所、特約店にご依頼ください。

本製品を取り扱われる前に必ず本書をお読み下さい。

株式会社シバウラ防災製作所

は じ め に

このたび「シバウラ可搬消防ポンプ」をお買い上げ頂き厚く御礼申し上げます。
弊社より「シバウラ可搬消防ポンプ」を安全に御使用頂くために、まず最初に以下のことをお願いします。

※ 本製品は消防活動にのみ御使用ください。

※ 本製品の使用者は消防職団員、自主防災組織要員、自衛消防組織要員、及び可搬消防ポンプ等整備資格者のうち安全使用法に関する教育訓練を受けた者とさせて頂きます。

又、本製品の点検・整備については可搬消防ポンプ整備資格者を有する整備事業所、特約店に御依頼下さい。
この取扱説明書は「シバウラ可搬消防ポンプ」を取り扱われる方々に、有効かつ安全に使用して頂くために設置致しました。「シバウラ可搬消防ポンプ」の性能を十分に発揮するために、また取扱われる皆様の安全のためにも、かならず御一読下さい。
なお、本書をお読みになり、万一わかりにくい点、或いは処置にお困りのことがございましたら、本機をお求めになりました特約店もしくは直接弊社に御連絡下さい。

ー 目　次 ー

安全に御使用頂くために　・・・

安全に御使用頂くために

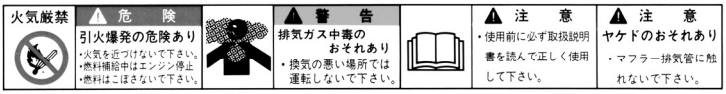
警告表示の分類とその意味については以下のようになっています。

「危険」:　取扱いを誤った場合、死亡又は重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。

「警告」:　取扱いを誤った場合、死亡又は重傷を負う危険性が想定される場合。

「注意」:　取扱いを誤った場合、軽傷又は物的損害の発生が想定される場合。

当社の消防ポンプには、特に重要な危険事項に対し、下のような注意ラベルが貼付されています。
御使用に際しては十分に御理解の上、遵守して頂くようお願いします。



L82900770

L82900780

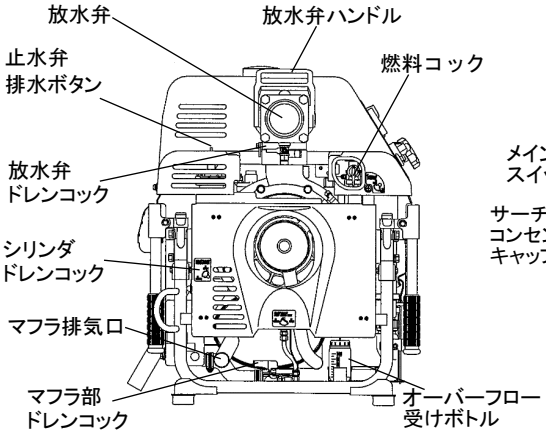
又、下記のような危険も想定されます。こちらの方も同様に注意事項の厳守をお願いします。

内　容	ランク	危 険 箇 所	注　意　し　て　頂　く　こ　と
火　災	危険	燃料タンク （ガソリン補給時）	①　火気を近づけてはいけません。 ②　ガソリンの補給はエンジン停止後、充分に冷えてから行って下さい。 ③　ガソリンをこぼさないよう注意して下さい。
	警告	マフラ（排気ガス） マフラ（枯れ草） バッテリ（ガス引火）	①　可燃物から３m以上離れた場所で運転して下さい。 ②　枯れ草上で運転してはいけません。やむを得ず運転する場合は、マフラ下の枯れ草を除去して下さい。 ③　バッテリキャップの取外しは通気性の良い所で行って下さい。 ④　バッテリキャップの取外し時に、火気を近づけてはいけません。

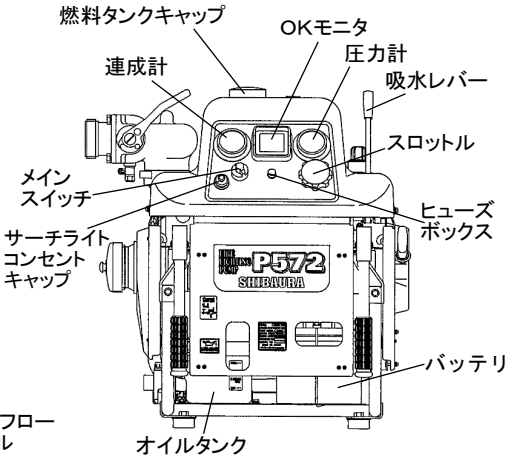
内　容	ランク	危 険 箇 所	注　意　し　て　頂　く　こ　と
	注意	燃料タンク （ガソリン補給時） キャブレタ （オーバーフロー）	①　燃料をこぼした場合、拭き取ったウエス等の処分には注意して下さい。 ②　燃料タンクキャップは確実に締めて下さい。 ③　燃料の補給は通気性の良い所で行って下さい。 ④　運転時以外は、必ず燃料コックを「閉」にして下さい。 ⑤　オーバーフロー受けボトルに溜まった燃料は、そのままにせずに処分して下さい。
火　傷	注意	マフラ 排気マニホールド 排気口 バッテリ（電解液）	①　高温時に触れてはいけません。 ②　電解液を皮膚に付けないよう注意して下さい。
回転部	注意	リコイル	①　リコイルにて始動を行う際、衣服、手袋等を巻き込まぬよう注意して下さい。 ②　リコイルにて始動を行う際、半径２ｍ以内に人、物等が存在しないことを確認して下さい。
有　毒	警告	マフラ（排気ガス）	①　換気の悪い所で運転してはいけません。 （例：ポンプ小屋、トンネル内）
高圧水	注意	ノズル、放水口	①　ケガをさせる恐れがあるので、人に向けて放水してはいけません。 ②　放水準備中は放水口、ノズルの中をのぞきこんではいけません。 ③　放水弁の開閉は必ず低速で行って下さい。 ④　放水弁を開いたままエンジンを始動させてはいけません。（中継送水時を除く）
感　電	警告	点火プラグ 高圧コード バッテリ	①　運転中は、触れてはいけません。 ②　バッテリ交換の際は⊖端子側より取外し、⊕端子より取付けて下さい。
切り傷、はさまれ	注意	運搬ハンドル 放水弁	①　ハンドルを操作する際、ヒンジ部に触れてはいけません。 ②　放水弁を操作する際、放水口内に手、指を入れてはいけません。

内　容	ランク	危 険 箇 所	注　意　し　て　頂　く　こ　と
石等の 飛散・爆発	注意		①　放水中、石等の異物が飛んで人体に危険を与える場合がありますので、充分注意してご使用下さい。 ②　可燃流体、及び薬液等の吸入、吐出を行ってはいけません。爆発、火災の恐れがあります。
廃　棄	注意		①　バッテリ、オイル等の廃棄は専門の業者にご依頼下さい。
スリップ	注意		①　オイル等をこぼさないようにして下さい。こぼしたオイルは必ず拭き取って下さい。

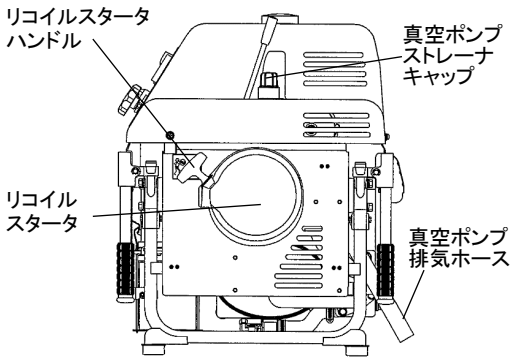
各部の名称



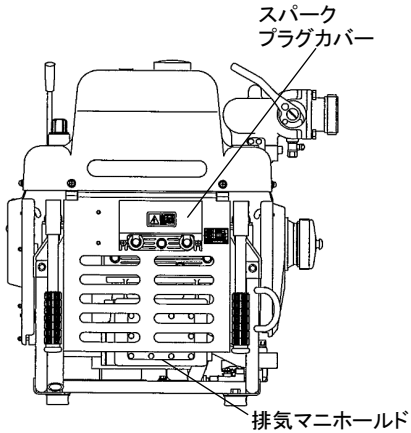
【ポンプ側】



【操作側】



【リコイルスタータ側】



【反操作側】

御使用になる前に

警告

(1) 同梱の標準装備品、付属品がそろっているか御確認下さい。
（P.28「仕様」）

(2) バッテリを結線します。まず操作側カバーを取外し、⊕端子、⊖端子の順にバッテリを接続してください。バッテリの最も⊕端子よりの液口栓を取外し、バッテリ液位センサを組付けて下さい。

運転準備

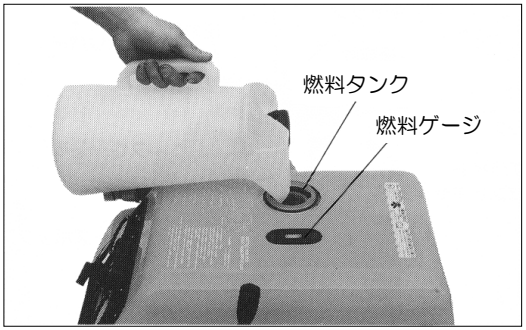
1. 燃料を入れて下さい。

危険

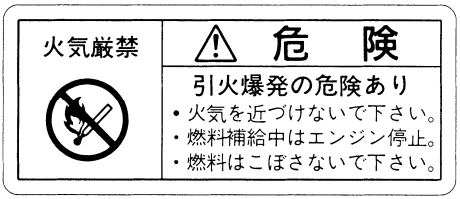
燃料タンクに自動車用ガソリンを入れて下さい。
（※分離給油方式ですので、２サイクルオイルとの混合は必要ありません。）

タンク容量：12L

タンク内の燃料の有無はタンク上面のゲージで見ることが出来ます。



(注) 1. 燃料はタンク注入口いっぱいまで入れないで下さい。
2. 長時間保管していた燃料で、刺激臭がしたり濁っていたりする場合は、直ちに交換して下さい。
3. 燃料コックのカップに、水やゴミが溜まっていたら外して掃除して下さい。



L82900770

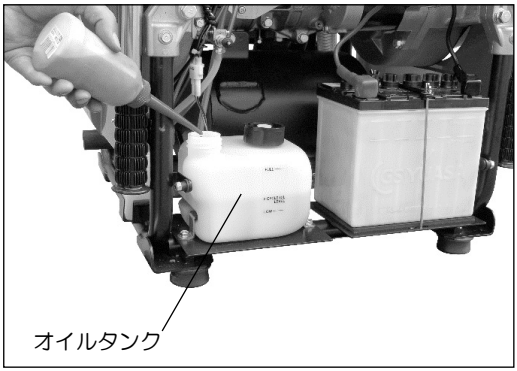
2.　オイルを入れて下さい。

注意

オイルタンクに２サイクル
専用オイルを入れて下さい。

タンク容量:１．２L

(注) 1. オイルはタンク注入口いっぱいまで入れないで下さい。



3.　ポンプを設置します。

注意

警告

以下のことを注意して下さい。

(1)　ポンプを移動する時は、正しく運搬ハンドルを持って運搬して下さい。
(2)　マフラが下部にありますので、枯草等の上に設置しないで下さい。
(3)　ポンプは出来るだけ吸水面に近づけ、吸水高さの少ないようにして下さい。又、なるべく水平になるように設置して下さい。
(4)　吸管は空気溜りができないように、ポンプ側に上り勾配になるようにして下さい。
(5)　吸管の先にはストレーナ、藤かごを必ず取付け、土砂を吸込む場合は藤かごの下に筵をひいて下さい。
(6)　藤かごは空気を吸込まないように、水面下 30cm 程に設置して下さい。
(7)　放水ホースは、折れのないように取りまわして下さい。

4.　放水弁、シリンダ、及びマフラ部ドレンコックを閉じて下さい。

運　　転

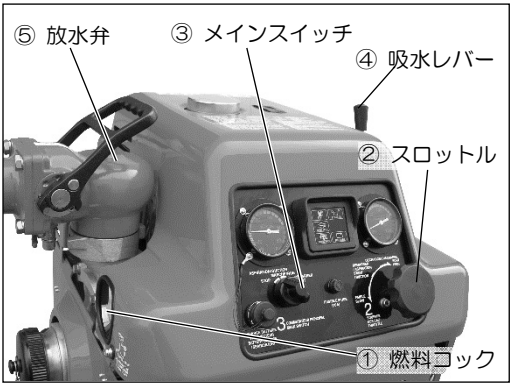
1.　始　　動

(1)　燃料コックレバー①を「開」にして下さい。

(2)　スロットル②を「始動・吸水」の位置にして下さい。

(3)　メインスイッチ③を「運転」にして下さい。セル始動時は更に「始動」まで回して下さい。リコイル始動時はステップを踏み、リコイルスタータハンドルを右記の要領で引張って下さい。

(4)　エンジンが始動します。

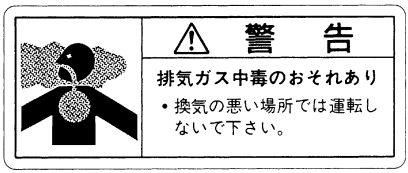


(注) 1.　燃料過多により、エンジンがかかり辛くなることがあります。その際はP.26の不調対策を参照して下さい。

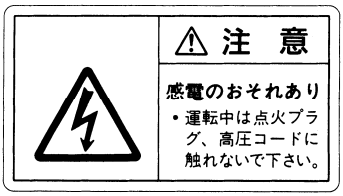
2.　本消防ポンプにはリコイルスタータハンドルの引き力を軽減する為、デコンプが装備されています。リコイルスタータハンドルを軽く引き出した時、「シューシュ」という漏れ音がすれば、デコンプが正常に作動しています。
漏れ音がしない場合は、デコンプ上部のクリアボタンを押して下さい。

3.　リコイルスタータのロープは引き切らぬようにして下さい。

4.　吸水しない状態で繰り返しエンジンの始動～停止を行わないで下さい。燃焼していない燃料混合気がマフラ内で爆発(アフタファイア)する恐れがあります。



L82900770



L82900780

2. 吸水・放水

⑴ エンジン始動後、吸水レバー④を「吸水」方向に引き、真空ポンプを作動させて下さい。

⑵ 真空ポンプの排気ホースより水が連続的に排出したら、吸水レバーを「放水」方向に速やかに戻して下さい。但し、吸管の途中に凸部がありますとそこに空気溜りが出来ますので、1～2 秒程吸水レバーを長めに作動させて下さい。

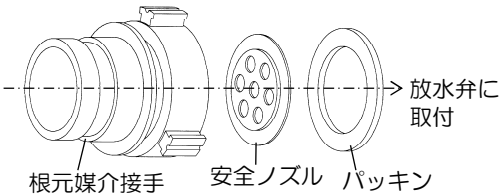
⑶ 筒先の安全を確認し、スロットルを「始動・吸水」位置のまま放水弁⑤をゆっくりと開いて下さい。放水開始後に、適切な放水圧力になるようスロットルを調節して下さい。

(注)

1. 吸水高さが高い場合、放水弁を急激に開かないで下さい。
吸管中の水が落水し、放水出来ないことがあります。また吸水高さが高くキャビテーションを発生する場合は、できるだけスロットルを低速にして下さい。
2. 吸水レバーを作動させ真空ポンプを運転する時、その運転時間は 30 秒以内として下さい。
3. エンジンは吸水した水によって冷却されます。吸水しない状態での運転（空運転）時はスロットルを低速にし、時間も２分以内として下さい。本消防ポンプには冷却水温上昇を検知してエンジンを停止する安全装置を備えていますが、冷却水の無い空運転時にスロットルを中～高速にすると安全装置が正常に機能しない場合があります。必ず前記の指示を遵守して下さい。
（→Ｐ.11「空運転を長めにしたいときは」）
4. ホース延長数、筒先口径、送水高さ、２線放水等により必要なポンプ圧力が異なりますので、筒先の放水圧力に対してポンプ圧力を決めて下さい。

注意

5. 放水圧力が高過ぎたり、放水弁の開閉を急激に行ったりすると管鎗が振られることがありますので注意して下さい。
6. 消火栓からの給水・中継送水を行う場合はP.13「消火栓からの給水・及び中継送水について」を参照して下さい。
7. 水槽からの汲み出しや中継タンクへの送水など、筒先ノズルを使用せずに運転する場合、及び２線放水で運転する場合は、安全ノズルを右図のように根元媒介接手と放水弁の間に装着して下さい。

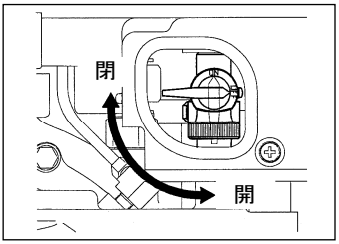


3.　放水の一時停止

⑴　放水中のノズルの交換、或はホース継ぎ換え等をするために一時放水を停止する場合には、スロットルを「低速」にした後、放水弁を「全閉」にすれば放水は止まります。

⑵　吸管を付けたままの状態で運転を一時停止する場合には、スロットルを「低速」にし吸水レバーを放水の位置のままエンジンを停止して下さい。この場合、逆止弁の作用で落水しませんからエンジンを起動し放水弁を開けば放水されます。(但し再始動は３分以内に行って下さい。)

4.　停　　止



⑴　スロットルを「低速」方向にいっぱいまで回し、放水弁を「閉」にして下さい。

⑵　メインスイッチを「停止」にしますと、エンジンが停止します。

⑶　すぐに再始動する時以外、必ず燃料コックを「閉」にして下さい。

(注) スロットルを「低速」にせず、中～高速運転状態のままエンジンを停止しないで下さい。
アフタファイアする恐れがあります。

5.　空運転を長めにしたい時は

シリンダ内に冷却水を溜めておくことで、空運転をアイドリングで約 10 分行うことが出来ます。この方法で運転したい時は、運転後の排水時にシリンダドレンコックを閉じたままにし、水を残すようにして下さい。又、寒冷時にこの方法で運転する時は、シリンダ内に不凍液を入れて下さい。(→Ｐ. 21「寒冷時の心得」)

6. 保　　管

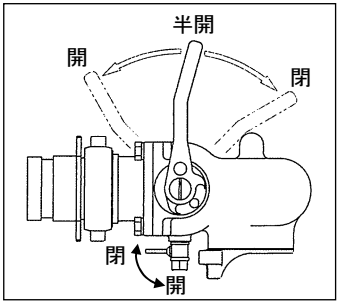
(1) 放水弁を「半開」にし、放水弁、シリンダ、マフラ部ドレンコックを開いて下さい。止水弁排水ボタンを押し、完全に排水します。排水後は忘れずに閉めて下さい。

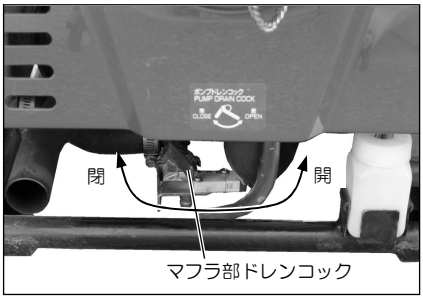
(2) 吸管を取り外した後、エンジンを再始動して下さい。真空ポンプを２～３秒運転し、真空ポンプ内の水分を除去した後、エンジンを再停止させて下さい。

(3) 燃料コックレバーを「閉」にして下さい。

(4) オーバーフロー受けボトルに燃料が溜まっていたら、処分して下さい

(5) 吸水口キャップを取付け、ポンプ覆いをして保管してください。





(注) 1. 排水が不充分ですと、凍結による破損や腐食の恐れがあります。

2. 泥水、海水を使用した場合は、清水を通して運転しポンプ内を洗浄して下さい。
この後も忘れずに各部の排水を行って下さい。

3. ポンプ格納庫は湿気の無いようにして下さい。

4. 月に１度５～10 分程度の放水運転をスロットル高速で行って下さい。

5. 月に１度はバッテリの充電状態、電解液量を点検して下さい。又、保管中はバッテリの補充電を行って下さい。(→Ｐ. 20「バッテリ及び充電器の取扱」)

6. 長期保管時にはキャブレタドレンコックを開き、フロート室の燃料を抜いて下さい。
（→Ｐ. 17「3. キャブレタ」)
又、燃料タンク内の燃料も３ヶ月以内に使い切るか交換をして下さい。

7. 保管前に必ず完全に排水されているか確認して下さい。寒冷時は不凍液をポンプに入れて下さい。(→Ｐ. 21「寒冷時の心得」)

消火栓からの給水・及び中継送水について

1.　消火栓からの給水

⑴　消火栓の給水能力

消火栓から給水をする場合は、その消火栓から放水に必要な水量が確保できるかを確認する必要があります。

消火栓の給水能力は消火栓の口径、配管状況、初期水圧などに左右され、それら相互の影響について考慮しなければなりません。例えば初期水圧の高い消火栓であっても口径が小さければ給水能力が不十分なこともあり、水圧が低くても口径が大きければ充分な給水能力を有していることもあります。

⑵　給水方法

(a)　給水圧力が高い場合に吸管が損傷する事があるので、ポンプへの給水には原則としてホースを使用し、中継用吸水口金具にて結合してください。

(b)　消火栓水利には土砂、小石等の異物が入っている場合があるので、ホースを結合する前に開弁、放水して除去してください。

(c)　消火栓の開閉弁は原則として全開し、給水圧力が特に高い場合にのみ開度を調節して下さい。

(d)　エンジンを始動する前に一旦放水弁を開き、連成計圧力を確認してからポンプを始動してください。

(e)　エンジン始動後は、連成計の圧力が０．０５ＭＰａ以上になるよう、スロットルを調節して下さい。

2.　中継送水

山林火災や市街地火災で水利が遠くにある場合には、２台以上のポンプを直列につないで、中継送水をすることがあります。

中継送水時は水源近くのポンプ（親ポンプ）と、その先方につながれたポンプ（子ポンプ）を連動させて操作する必要があるため、通常の運転操作以外にも様々な注意点があります。

⑴　運転方法

①　親ポンプは、通常の操作で運転して下さい。但し、送水圧力は０．３ＭＰａ以上として下さい。

②　子ポンプは、あらかじめ放水弁を開いておいて下さい。親ポンプからの送水が到達したら圧力計を読み、運転を行うかどうかを判断します。

③　子ポンプを運転する場合、スロットルの操作は徐々に行って下さい。また、連成計圧力が０．０５ＭＰａ以下、圧力計圧力が１．０ＭＰａ以上にならないよ

うに操作して下さい。

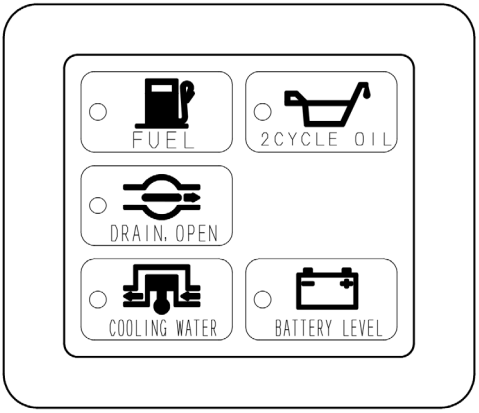
④　送水を終了する場合、子ポンプからエンジンを停止してください。又、親ポンプからの送水が停止するまでは放水弁を閉じないで下さい。

⑵　注意事項

(a)　子ポンプの放水弁は、親ポンプからの送水中は絶対に閉じないで下さい。送水流路の急変動による衝撃（ウォーターハンマー）、及び高圧力により、ポンプの破損等の事故を起こす恐れがあります。

ＯＫモニタ

操作パネル上のＯＫモニタで、ポンプの運転状態を集中管理出来ます。異常時の警告表示やエンジンの緊急停止機能により、ポンプを安全に使用出来ます。



1.　モニタの動作チェック

メインスイッチを「運転」にするとモニタの全ＬＥＤが約３秒間点灯します。点灯しなければ何らかの異常がありますので、整備事業所・特約店に点検をご依頼下さい。

2.　モニタ表示及び対応

表　　示		モニタ動作		対　　応
	FUEL （燃料）	燃料が少なくなるとＬＥＤが点灯します。		燃料タンクにガソリンを入れて下さい。
	2 CYCLE OIL （2サイクルオイル）	オイル量が少なくなると焼付防止の為エンジンを停止し、ＬＥＤが点滅します。		メインスイッチを「停止」にし、オイルタンクにオイルを補給してエンジンを再始動して下さい。
	DRAIN OPEN （ドレン開）	マフラ部ドレンコックが開いていると、ＬＥＤが点灯します。		排水時以外はドレンコックを閉じて下さい。
	COOLING WATER （冷却水）	点灯	冷却水の水圧が低いとＬＥＤが点灯します。	エンジン冷却水の不足によりオーバーヒートを起こす恐れがあります。 スロットルを高速にするなどして、水圧を上げて下さい。
		点滅	冷却水の水温が高くなるとオーバーヒート防止の為、エンジンを停止し、ＬＥＤが点滅します。(注 1)	冷却水温が上昇します。原因を調査し、その原因を除いて下さい。

表　　示		モニタ動作		対　　応
	BATTERY (バッテリ)	点灯	バッテリ電圧が下がると、ＬＥＤが点灯します。	→P.20「バッテリ及び充電器の取扱」参照
		点滅	電解液量が少なくなると、ＬＥＤが点滅します。	

(注)　(1) 冷却水の無い空運転時には、正常に機能しない場合があります。空運転は本書の指示を遵守して行って下さい。(→P.10 (注) 3)

(2) 点検はＯＫモニタだけに頼らず、定期点検時には各部を実際に点検して下さい。

整　　備

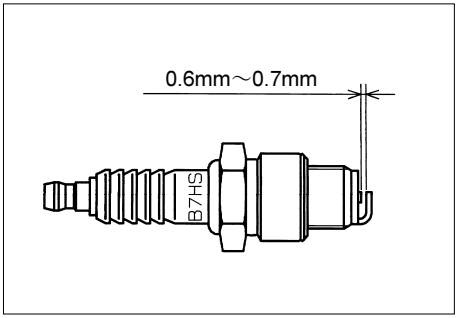
エンジン関係

1.　点火プラグ

排気ガスやカーボンでよごれた電極部はきれいに掃除して下さい。

◇ 使用点火プラグ
　　NGK B7HS (P572)

◇ 間　隙
　　0.6～0.7mm

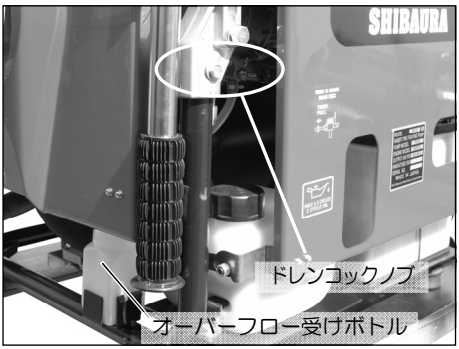


2.　スロットル

スロットルの操作力はスロットルボディ側の調整ナットにより微調整ができます。

3.　キャブレタ

ポンプを長期間保管する場合は、下記の要領でキャブレタフロート室の燃料を抜いて下さい。



(1) 燃料コックを閉じて下さい。

(2) ドレンコックノブを引き、燃料を抜いて下さい。排出した燃料はオーバーフロー受けボトルで受けられます。

(3) 燃料が抜けたらノブを放してください。

(4) オーバーフロー受けボトルを外し、排出した燃料は、廃棄して下さい。またこぼれた燃料はウェス等で拭き取って下さい。廃棄する燃料、拭き取ったウェスの処分には、注意して下さい。

(5) オーバーフロー受けボトルを元の位置に戻し、チューブ類を元のようにボトル内に挿入して下さい。

4.　エアクリーナ

エアクリーナカバーを取り外し、金網に付着したゴミ、汚れを取り除いて下さい。

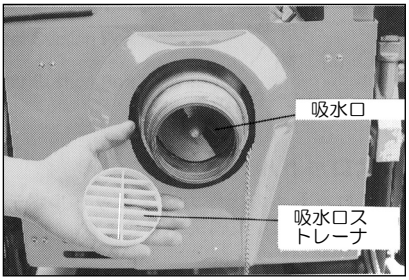
5.　サーチライト（オプション）

メインスイッチＯＦＦ時に使用したい、などの時はバッテリで点灯出来ます。
そのような時は配線図（→Ｐ.29　配線図」）の如くコンセント裏側の結線を１本つなぎ変えて下さい。この場合はバッテリの消費が多くなりますので、充電管理に注意して下さい。

ポンプ関係

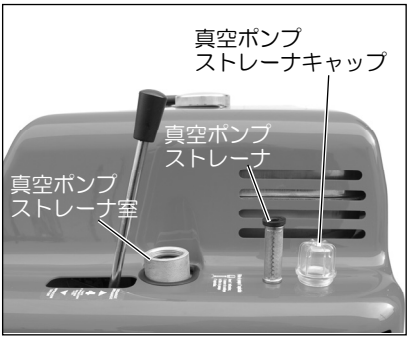
1.　吸水口ストレーナ

藻のある場所で使用のあとは、吸水口ストレーナにからんだ藻を取り除いて下さい。



2.　真空ポンプストレーナ

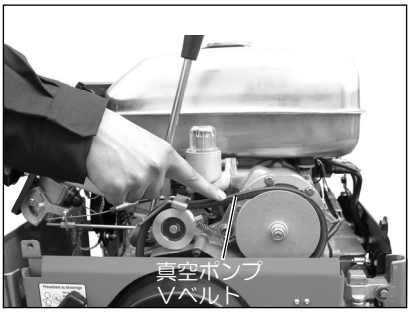
土砂又は藻のある場所での使用のあとは、ストレーナキャップを外し、ストレーナを掃除して下さい。



3.　真空ポンプ駆動用Ｖベルトの調整及び交換

(1)　ベルトが付回りする場合、ベルト押えを調整して下さい。

(2)　ベルトが伸びてきたら、ある程度テンションプーリの位置を調整することで対応出来ます。
対応出来なくなった場合、あるいはベルトが破損したりした場合、ベルトを交換して下さい。（使用ベルト　A-29　Ｖベルト）



4. バッテリ及び充電器の取扱

(1) バッテリ

付属のバッテリは液入充電済ですので、そのまま御使用になれますが、できれば多少充電を行って下さい。

(注) 1. バッテリの ⊕(赤)・⊖(黒)の配線を間違えないように注意して下さい。
2. バッテリ取付けは ⊕ 端子より始め、取外しは ⊖ 端子より行って下さい。
3. 本製品の推奨バッテリは、**ジーエス・ユアサバッテリー GYN－30A19R**です。推奨品以外のバッテリを使用した場合、バッテリセンサが組付かない事があります。

(2) バッテリの管理

警告

① 電解液は希硫酸ですので、身体に着くと非常に危険です。補液時以外は液口栓を外さないで下さい。補液をする場合は身体等に電解液が着かない様注意して下さい。又、電解液をこぼさない様に注意して下さい

② バッテリは使用しなくても自己放電しますから、自己放電分とセルモータの消費分の補充電が必要です。

※ 自動車などと違い運転してもほとんどバッテリに充電されませんので、必ず充電器での充電を行って下さい。

③ 付属の充電器は自動充電器です。普通充電と補償充電（バッテリの自己放電分の補充）が、自動的に切替わります。

警告

④ 時々電解液量を点検し、不足している場合は蒸留水を最高液面迄注入して下さい。

(3) 充電方法

警告

① バッテリのちりやほこりを取り除き、端子部を清潔にして下さい。電解液が不足している場合は蒸留水を最高液面迄注入して下さい。

充 電 状 態 ○：点灯

		電源ランプ（赤）	完了ランプ（緑）
未 充 電			
普通充電中	80％未満	○	
	80％以上	○	○
補償充電中			○

② 充電器の出力プラグを本消防ポンプのコンセントに接続して下さい。電源スイッチを入れれば電源ランプ（赤）が点灯し、充電を開始します。

③ 完了ランプ（緑）が点灯し、電源ランプ（赤）が消灯すると充電完了です。充電器はそのまま補償充電状態になります。

(注) 1. バッテリの逆接などで過大電流が流れるとブレーカーが作動します。また充電中のセル始動でも、ブレーカーが作動する事があります。原因を除去し、ブレーカーを押して正常位置に戻して下さい。
2. バッテリの耐用年数は約２年です。

寒冷時の心得

1.　格納、保管上の注意

(1)　使用燃料は良質のものを選んで下さい（良質のガソリン程、揮発性が高く始動し易い為)。

(2)　ポンプ本体、放水弁、真空ポンプ、マフラを凍結させないようにします。ポンプ使用後は水分を排除し、不凍液又はアルコール処理をして下さい。場合によっては温暖措置を講じて下さい。

(3)　不凍液を常時備えておくようにして下さい。

(4)　真空ポンプが廻るか確認し、万一凍結している時は熱湯をかけて加熱して下さい。

(5)　バッテリの保守を良くして下さい。

◇不 凍 液

混合割合		凍結温度
不凍液(%)	水 (%)	(℃)
10	90	-4
20	80	-10
30	70	-17
40	60	-27
50	50	-39

2.　不凍液の入れ方

(1)　各部のドレンコックより完全に排水後、ポンプカバーキャップを締め付け、放水弁、シリンダ、マフラ部ドレンコック及び放水弁を閉じます。マフラ部ドレンコックの排水口にチューブを取り付け、反対側を不凍液中に入れて下さい。

(2)　エンジンを始動後、吸水レバーを吸水の位置にして真空ポンプを５秒程作動させて下さい。連成計が十分負圧になっていたら、吸水レバーを放水の位置に戻してエンジンを停止します。負圧にならなければポンプカバーキャップ、ドレンコック等がきちんと閉じられているか確認し、再度(2)の操作を行って下さい。

(3)　マフラ部ドレンコックを開くと不凍液を吸い込みます。５L 程度液を吸わせ、それ以上吸わなくなったらコックを閉じて下さい。

(4)　エンジンを再始動し、５秒程運転して液を全体に行き渡らせて下さい。吸水レバーを吸水位置にし、真空ポンプ排気パイプから不凍液が排出されたら吸水レバーを放水位置に戻し、エンジンを停止して下さい。

(5)　各ドレンコックを開いて不凍液を抜いてください。(空運転を長めに行いたいときはシリンダドレンコックから不凍液を抜かないで下さい。→P.11「空運転を長めにしたいときは」)

(注)　1.　寒冷時には運転中でも真空ポンプが凍結する恐れがあります。そのような恐れのあるときは真空ポンプストレーナキャップを外し、そこから不凍液を 10mL 程入れます。エンジンを始動して吸水レバーを引き、真空ポンプ内にも不凍液を行き渡らせて下さい。

3.　付属品取扱上の注意

(1)　布ホース及び金具類は使用後充分に水分を切って下さい。

(2)　凍結した布ホース等は湯を注いで下さい。

定期点検

シバウラ可搬消防ポンプの性能維持のため、6ヶ月毎に可搬消防ポンプ等整備資格者による定期点検を実施して下さい。

可搬消防ポンプの維持管理について

・可搬消防ポンプは万一の火災（災害）に備え、定期的な点検、整備が必要です。
・機能を確実に発揮する推奨使用期間は10年が目安です。
・整備資格者による定期点検整備は6ヶ月毎に実施して下さい。
・整備については、可搬消防ポンプ等整備資格者が実施する事をお奨め致します。
（補修用部品の供給につきましても現在生産打ち切り後10年とさせて頂いております。）

納入年度

L82901050

維持管理ラベル

可搬消防ポンプ
点検・整備済証

可搬消防ポンプ整備資格者	交付NO. 氏名
点検・整備年月日	年　月　日
次回点検整備年月	年　月
発行番号	・

（社）日本消防ポンプ協会

L82901020

点検・整備済証

可搬消防ポンプ等に使用されている部品には表面的に異常がみられなくても、経時劣化により、機能が低下する部品があります。
定期点検の際、下記表を参考にそのような部品を定期的に交換して下さい。

◇定期交換部品

部品名称	交換時期の目安
点火プラグ	1年毎
燃料パイプ	2年毎
バッテリ	2年毎
オイルパイプ	3年毎
オイルフィルタ	3年毎
真空ポンプ駆動用Vベルト	3年毎
その他ゴム類	2年毎

◇定期交換品

定期交換品	交換時期の目安
燃料	6ヶ月毎
ガバナオイル	運転時間：50時間／1年毎

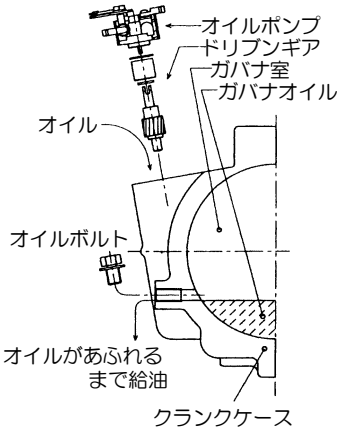
《ガバナオイルの点検要領》

オイルポンプを取外し、右図のボルト孔より流れ出すまで、オイルを補給して下さい。

自動車用モービルオイル　SAE＃30・＃20（冬期）

規定量　50ml

(注)　冬期寒冷地に於いては SAE5W30 又は SAE10W30 等低温に適した潤滑油をご使用下さい。



不調対策

※ 対策欄が【　】となっているものは必ず、可搬消防ポンプ等整備資格者を有する整備事業所もしくは特約店に点検、整備を御依頼下さい。

エンジンの部

状況			原因・対策
始動困難	燃料系統	吸入燃料の過多	⑴ スロットルを「低速」位置で始動させて下さい。 ⑵ それでも始動しない場合は、一旦燃料コックを「閉」にして始動操作を行って下さい。始動後は、燃料コックを「開」に戻して下さい。 【キャブレタのフロート、ニードルバルブの不良の可能性があります。】
		燃料の不良	ガソリンが古くなっていないか、又は水が混入していないか確認して下さい。 その場合は新しいものと交換して下さい。
	電気系統	点火プラグ	点火プラグが緩んでいないか、電極が汚れていないか、又は間隙が0.7㎜以上になっていないか確認して下さい。その場合はプラグの掃除、間隙の調整をし、きちんと締め付けて下さい。
		マグネト関係の不良	【フライホイールマグネトのコイル、ＣＤＩユニット、イグニッションコイルの不良の可能性があります。】
		その他	結線の外れが無いか確認して下さい。 その場合は配線図の通りに結線して下さい。
			操作パネル上のヒューズボックスを開け、中のヒューズが切れていないか確認して下さい。切れていたら、交換して下さい。
			メインスイッチを「運転」にし、ＯＫモニタのバッテリ電圧表示部のＬＥＤが点灯していないか確認して下さい。点灯していたらバッテリを充電して下さい。
	デコンプ		デコンプが緩んでいないか確認して下さい。緩んでいたら、きちんと締め付けて下さい。リコイルが重くて引けない時は、デコンプを押して下さい。

状況		原因・対策
回転不調	燃料過多・燃料不良	→ 「始動困難・燃料系統」参照
	吸入燃料の不足	燃料タンクキャップの空気孔及び燃料通路が詰まっていないか確認して下さい。詰まっていたら掃除して下さい。
	点火プラグ	→ 「始動困難・電気系統」参照
異音発生	部品の磨耗	【シリンダ、ピストン、ピストンリングなどが摩耗している可能性があります。】
	ノッキング	【冷却系統の不良でシリンダが過熱し、ノッキングしている可能性があります。】
	片肺運転	ガソリンが古くなっていたり、プラグに異常があると爆発が不規則になり、片肺運転する場合があります。 → 「始動困難・燃料系統、電気系統」参照
シリンダヘッドの異常過熱		【シリンダヘッド、ピストン頭部に過度のカーボンが堆積している可能性があります。】
		【マフラ内部、もしくは排気口が詰まっている可能性があります。】
		【冷却水通路に異物が詰まっている可能性があります。】
		【点火プラグの点火時期が狂っている可能性があります。】

不調対策

ポンプの部

状況		原因・対策
吸水できない	連成計が負圧を示す	ポンプと吸水面の高低差が 9m 以上あると吸水できません。ポンプを設置する際、吸水高さができるだけ小さくなるようにして下さい。
		吸管のストレーナ、藤籠、吸管内部、吸水口ストレーナが詰まっていないか確認して下さい。 詰まっていたら異物を除去して下さい。
		吸管内にエアポケットが発生していると、吸水できないことがあります。 吸管が正しく取り回されているか確認して下さい。
	連成計が負圧を示さない	放水弁、ポンプカバー、シリンダ、マフラ部ドレンコックが閉じているか確認して下さい。 開いていたら、閉じて下さい。
		真空ポンプのストレーナキャップがきちんと閉じられているか、又ストレーナが詰まっていないか確認して下さい。詰まっていたら掃除して、キャップをきちんと締め付けて下さい。
		Ｖベルトが伸びていないか、又切れていないか確認して下さい。 →Ｐ.20「整備・真空ポンプ駆動用Ｖベルトの調整及び交換」参照
		吸管がきちんと締め付けられているか、また吸水部がきちんと水中に没しているか確認して下さい。その場合は吸管をきちんと締め付け、吸水部を完全に水中に沈めて下さい。
		【ポンプのシール、又は配管に洩れがある可能性があります。】
		【真空ポンプが破損している可能性があります。】
		【エア抜き装置が詰まっている可能性があります。】
放水圧力が出ない	ポンプ	ノズル口径が大き過ぎると放水圧力が出ません。ノズルが適切か確認し、そうでなければ交換して下さい。
		吸管のストレーナ、藤籠、吸管内部、吸水口ストレーナが詰まっていないか確認して下さい。 → 「吸水できない」参照
	エンジン	エンジンの調子を確認して下さい。 → 「回転不調」参照
ポンプが回転しない	ポンプ	ラビリンス部に異物が混入していないか確認して下さい。混入していたら、排除して下さい。
		ポンプが凍結していないか確認して下さい。 → 「寒冷時の心得」参照
	エンジン	【エンジンが焼き付いている可能性があります。】

単位換算表

名　　称	旧	新	
回 転 速 度	回転数 rpm	回転速度 rpm	（アール・ピー・エム）
圧　　力	kgf/cm²	MPa	（メガパスカル）
質　　量	重　量　kgf	質　量　kg	（キログラム）
容　　量	ℓ	l，L	（リットル）
消　費　量	cc/min	ml/min	（ミリリットル・パー・ミニット）
真　空　度	mmHg	－MPa	（メガパスカル）
排　気　量	cc	ml	（ミリリットル）
出　　力	PS	ｋW	（キロワット）

- 1 kgf/cm² ≒ 0.098MPa
- 760 mmHg ≒ －0.1013MPa
- 1 PS ≒ 0.735ｋW
- 1 cc ＝ 1 ml

仕　　様

P572

規格	可搬消防ポンプB－2級	届出番号	P0148001
エンジン		ポンプ	
型式	EP572	型式	P572
区分	S	区分	S
形式	水冷2サイクル水平2気筒 ガソリンエンジン	形式	高圧1段 タービンポンプ
シリンダー mm （数-内径×行程）	2-80×72	吸水口径 mm	呼称 75 （消防用ネジ式結合金具 JIS B 9912）
総排気量 mL	723	放水口径 mm	呼称 65 （消防用ネジ式結合金具 JIS B 9912）
出力 kW/rpm	34.3/5200		
燃料消費量 L/h	17.5（規格放水時）	性能 規格圧力MPa	0.7
気化器	フロート・オートチョーク式	規格放水量 m^3/min	1.53
冷却方式	強制水冷式		
点火方式	無接点（C.D.I）マグネト点火	規格ノズルmm	φ29.5
点火プラグ	NGK B7HS	規格回転速度 rpm	約 4900
燃料タンク容量 L	12		
使用燃料	自動車用ガソリン	高圧圧力MPa	1.0
オイルタンク容量 L	1.2	高圧放水量 m^3/min	1.06
		高圧ノズルmm	φ22.5
使用潤滑油	2サイクル専用オイル （分離給油方式）	高圧回転速度 rpm	約 5000
始動方式	セルモータ式 リコイル式	定格回転速度 rpm	5200（ガバナセット）
充電能力 V-A	12-1.0	ポンプ室シール	メカニカルユニットシール
調速方式	遠心重錘式	真空ポンプ 形式	4翼偏心ロータリ式
回転方向	左（出力側から見て）	給油方式	無給油式
点灯能力 V-W	12-3×2　（メータランプ） 12-25　（サーチライト）	真空度	吸水高さ約 9m （-0.085MPa 以上）
バッテリ	30A19R （12V21Ah）	寸法 mm （全長×全幅×全高）	657×584×720
		乾燥質量 kg	約 94

標準装備品

名称	個数	名称	個数	名称	個数	名称	個数
根元媒介接手	1	バッテリ	1	吸水口ストレーナ	1		

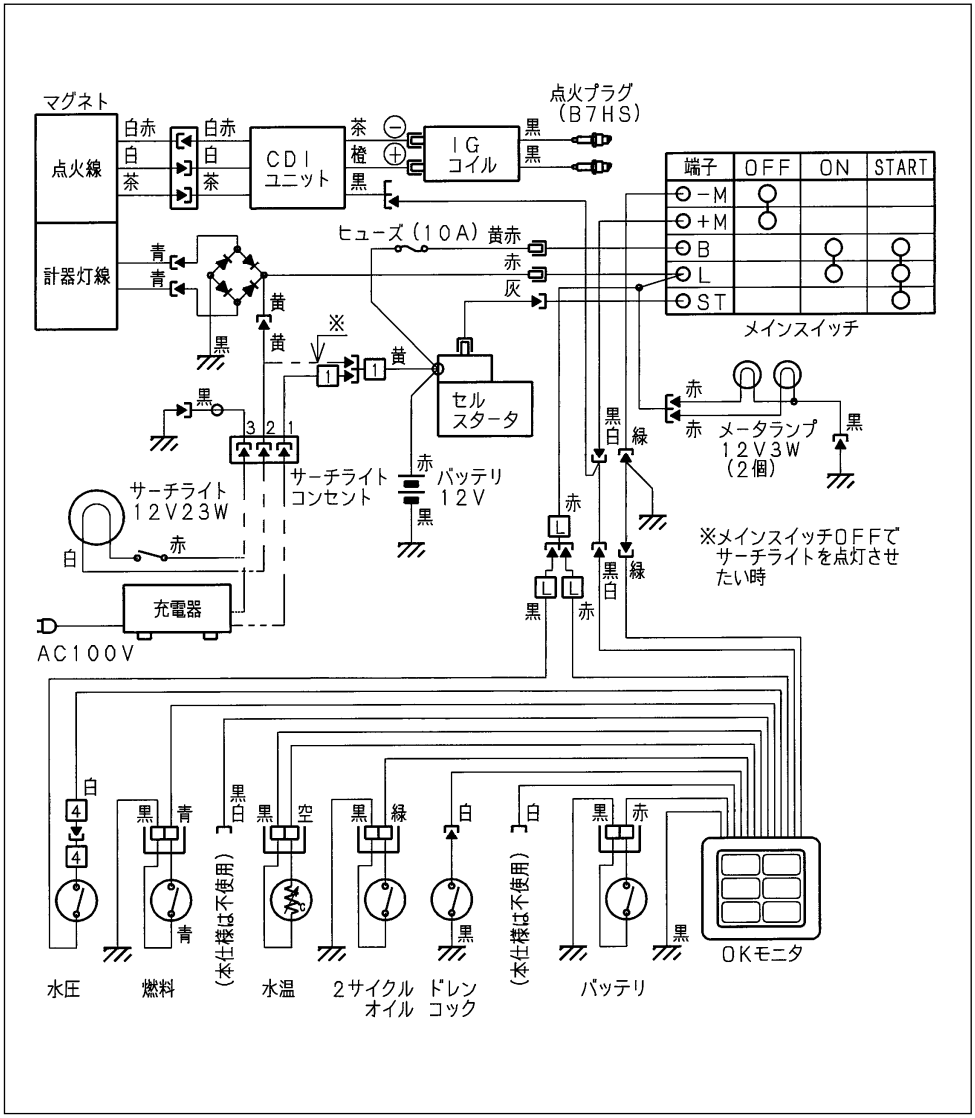
付属品

名称	個数	名称	個数	名称	個数	名称	個数
分解工具一式	1	充電器	1	安全ノズル	1	取扱説明書	1
ポンプ覆い	1	点火プラグ	1	ヒューズ	1	蜜栓	1

配 線 図

配 線 図

(注) 1. ヒューズが有りますが、バッテリの ⊕ ⊖ の端子への配線を間違えぬよう注意して下さい。
2. バッテリ取付の際は ⊕ 端子より始め、取外しの際は ⊖ 端子より始めて下さい。



MEMO

株式会社シバウラ防災製作所

国内営業部
〒390-0846 長野県松本市南原1丁目3番10号
TEL (0263)29-1072　FAX (0263)29-1074

URL:www.shibaura-bousai.co.jp

200812530　2017.12　50K